

第2回 男女平等推進市民会議 会議要録

日 時：平成23年8月1日（月）18:30～20:00

会 場：庁議室

参加者：山下会長・野田委員・吉村委員・渡邊委員・梶原委員・斎藤委員・守屋委員
・鈴木委員・荒島委員・西川委員

事務局：市民部長・男女共同参画係長・男女共同参画係員

○議題

- (1) 第1回男女平等推進市民会議 会議要録（案）について
- (2) 男女平等推進プラン進捗状況評価（平成22年度分）について
- (3) その他

- ・議題（1）第1回男女平等推進市民会議 会議要録（案）について

～意見なし～

- ・議題（2）男女平等推進プラン進捗状況評価（平成22年度分）について

会 長：事務局より説明願う。

事務局：主要課題別に担当委員の皆さまにお集まりいただき、進捗状況の評価についてご検討いただいた内容をまとめた資料を事前に送付している。内容について修正点やご質問があれば伺いたい。

会 長：主要課題1から5について担当委員から何か意見はあるか。

主要課題1について ～意見なし～

主要課題2について

会 長：内容自体に意見はないが文章に手を加えさせていただいた。

主要課題3について ～意見なし～

主要課題4について ～意見なし～

主要課題5について ～意見なし～

会 長：他に意見がなければ進捗状況評価については承認とする。
今後のスケジュールについて事務局から説明願う。

事務局：進捗状況評価について委員の皆さまからご承認いただいたため、事務局にて最終的な確認および修正を行う。答申書の作成については前年度と同様の形式とし、主要課題別の担当委員会議の中でのご指摘を踏まえて答申案を作成し、委員の皆さまに送付する。その後、次回の市民会議にて最終決定し、答申期限までに市長へご答申いただく。

・議題（3）その他

会 長：講演会について説明願う。

事務局：9月10日に「男女共同参画社会の形成をめざす 東久留米市第2次男女平等推進プランの策定に伴う 樋口恵子氏講演会とパネルディスカッション『一人ひとりに居場所と出番を』」と題して2部構成で講演会を開催する。事業開催の趣旨は、今年度策定した第2次男女平等推進プランの周知である。

樋口氏には、男女共同参画社会について事例を交えながらご講演いただけるようお願いをしている。

第2部で行うパネルディスカッションにおいても、樋口氏にはパネリストとしてご参加いただく。ほかに、プラン策定に係わられた方の代表として男女平等推進市民会議から山下会長、男女平等推進センター運営協議会から田口会長および行政の代表として馬場市長の合計4人をパネリストとして予定している。また、パネルディスカッションのコーディネーター及び総合司会を市民会議委員である齋藤委員にお願いしている。

当日のタイムスケジュール案では、パネルディスカッションの時間を45分間としており時間が限られていることから、パネリストの方には事前に質問内容などをお伝えし、それぞれのお立場でご発言いただけるようお願いしたいと考えている。構成としては、まず、山下会長に第2次男女平等推進プランについて策定までの経緯や内容の簡単な説明も含めご紹介いただく。次に、市長からプランの策定を受けて行政としてどのようにプランを実行・推進していくのかを今後のビジョンも含めてご発言いただく。その後、プランの中でも男女共同参画推進の拠点施設として充実・強化を図ると位置付けられている男女平等推進センターにおいて、市民の意見を反映するという立場に係わっている男女平等推進センター運営協議会の会長から、どのようにしてセンターの充実に取り組んでいくのか、実践の方法等についてご意見をいただく。最後に、有識者として樋口氏から、それぞれのパネリストの話を受けてコメントしていただく。

会 長：パネルディスカッションの時間が短いため、タイムスケジュール案において予定している講演会の時間を5分縮めて1時間とし、さらに会場設営の時間を15分から5分に変更することで、パネルディスカッションの時間を45分から1時間に変更した方が良いと感じる。

～全員が賛同する～

事務局：今回の講演会の主な目的は第 2 次男女平等推進プランの周知であり、男女共同参画についてのディスカッションではないということを皆さんにご理解いただきたい。

委員：パネルディスカッションでは、第 2 次男女平等推進プランの策定に当たり、策定した人、行政の代表および実践する人の立場でそれぞれに話をさせていただき、その後、樋口氏からコメントをいただく構成とする。

会長：第 2 次男女平等推進プランの概要版について説明願う。

事務局：内容は第 2 次男女平等推進プランを基に、4 ページ版と 8 ページ版を作成した。内容および構成についてご意見をいただきたい。なお、概要版は 9 月 10 日の講演会にて配布し、その後はプランの PR として様々な機会に配布していく予定である。

委員：図表などがあり、内容が分かりやすく記入されているので 8 ページ版の方が良いと考える。

～全員が賛同する～

事務局：8 ページ版を印刷する場合、観音開きで製本したいと考えている。

委員：重点施策 1 にある目標値を「男女の平等観について『社会全体において男女が平等である』と感じている人の割合」としているが、「社会全体において男女が平等である」状態とは、感じているという認識ではなく実態として平等であるということ示している。認識と実態が乖離していることもあるため目標値を平等観とすることは適切ではないと考える。

事務局：前年度の市民会議において、男女平等の意識づくりの成果指標として何が適切であるかについて議論していただいている。その結果、男女の平等観が数値目標として適当であるという結論になった。

委員：社会全体において男女が平等であるか否かを判断する際に、何をもって指標とするのかということを考えれば、平等観という認識は適切だと感じる。

委員：「感じている」という数値は定性的であるので定量的な指標を探すべきである。

委員：次期の市民会議にて、再度数値目標について議論を続けていくことが適当だと考える。

会長：重点施策 1 および 3 においては数値目標があるが、重点施策 2 にはなぜ数値目標が記入されていないのか。

事務局：重点施策 2 については、新規事業であり、具体的な内容をこれから検討実施していくため経過目標としている。

会 長：文章のみでは理解しにくいいため、矢印などの図形を用いて経過目標について分かりやすく記入した方が良い。

概要版の表紙について何か意見はあるか。

委 員：具象的なモチーフを入れた表紙にした場合、男女共同参画という視点で見た際に人によって様々な見方や感じ方が考えられるため、表紙として適切かどうか疑問に思われることがある。したがって、表紙の絵の構成は単純なものにした方が良いと考える。

会 長：表紙は抽象的な図形などにした方が良いと感じる。

事務局：皆さまからのご指摘を踏まえた上で概要版を作成する。

○次回会議

10月6日（木）18:30～20:30

○次回ワーキング・グループ（評価方法の検討）

9月5日（月）18:30～20:30